西方音楽館基金　用途を問わないご寄付　2023 年 1 月以降　1,040,000 円
西方音楽館友の会へのご寄付　2023 年 1 月以降　11,200 円

西方音楽館友の会会員募集

コンサートを主催する西方音楽館友の会では、経済的自立に向かって歩を進めるため、2023 年度より会員の種類と特典を変更いたします。ご理解いただき、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

- A 会員　年会費　4,000 円　入場料 4,000 円→3,500 円
- B 会員　年会費　10,000 円　ご招待状年間 2 枚　入場料の割引（A 会員と同じ）
- C 会員　年会費　15,000 円　ご招待状年間 3 枚　同上
- D 会員　年会費　20,000 円　ご招待状年間 4 枚　同上

西方音楽館友の会運営委員：中新井紀子（西方音楽館館長）、岡田龍之介（チェンバロ奏者）、小川和隆（ギタリスト）、木下大輔（作曲家）、高田良久（医師、下野楽遊代表）、中新井諒子（国立音大卒、クラリネット）、永田美穂（音楽学）、山村多恵子（オカリナ奏者）

西方音楽館友の会（2023 年 5 月 10 日までに年会費をお支払いいただいた方）
A 会員　年会費　4,000 円（28 名）　B 会員　年会費 10,000 円（38 名）
C 会員　年会費 15,000 円（3 名）　D 会員　年会費 20,000 円（4 名）
合計 73 名　617,000 円

コンサートは、友の会会費で支えられています。ご支援いただけますと大変ありがたいです。

今後の、西方音楽館友の会主催コンサート

●7 月 23 日（日）15:30 ～
七條恵子　フォルテピアノリサイタル
フォルテピアノのレッスン　7 月 23 日コンサート終了後および翌日 24 日午前中
受講生募集中！

西方音楽館友の会 2023 年度後半期

●10 月 1 日（日）15:30 ～
久元祐子 ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズ第 1 回

●10 月 22 日（日）15:30 ～
ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会シリーズ第 1 回
ヴァイオリン：廣海史帆　フォルテピアノ：平井千絵

●11 月 12 日（日）15:30 ～　**渡邊順生　チェンバロリサイタル**
ラブレッシュ・チェンバロで、ルイ・クープランとフローベルガーの作品

●12 月 16 日（土）15:30 ～　**国枝俊太郎　笛の旅**
フラウト・トラヴェルソ＆リコーダー：国枝俊太郎　チェンバロ：岡田龍之介

2024 年

●1 月 21 日（日）15:30 ～　**バッハ＝踊るいのち　vol.2**
ジルバーマンピアノ：武久源造　バロックダンス：岩佐樹里

●2 月 25 日（日）15:30 ～　**ベートーヴェン チェロとピアノのための初期作品　vol.2**
チェロ：髙橋弘治　フォルテピアノ：荒川智美

西方音楽館友の会主催子供のための催し
親子のための音楽会　6 月 18 日（クラリネットの演奏あり）、
8 月 20 日、10 月 9 日、11 月 23 日、2024 年 1 月 8 日、2 月 12 日

こ・ぼ・れ・話

耳を澄ます、
ということが出来にくい世の中。
でも、耳を澄ますことが
出来るようになると、
人の心にも耳を澄ませるように
なるのではないだろうか・・・。

中新井紀子

2023. 6.　**木洩れ陽の窓から**　No. 29

西方音楽館友の会会報

編集・発行人　中新井紀子

西方音楽館
322-0601
322-0601 栃木県栃木市西方町金崎342-1　TEL 0282-92-2815　Web http://wmusic.jp

耳を澄ます

中新井紀子

音楽は言葉で表現できないものを表現する。言葉からは抜け落ちてしまうたくさんのことを音楽は表現する。但し、音に関心が無いと、それを聴きとることは出来ない。

都会では、駅、お店、歩道を歩いていても、音が溢れている。騒音、聴きたくもない音楽、音声に、耳を塞ぎたくなることも多々ある。

例えば、マイカーを運転していて耳を澄ますと、聞こえてくるのは、ゴーゴーうるさいエンジンや、タイヤが道路上を走る音。たまに電車に乗って耳を澄ますと、ガタガタうるさい車輪が線路上を走る音、繋ぎ目では、ガタン！と振動も伴う。日常的に耳を澄ませてしまうと、あらゆる雑音を拾ってしまう。

田舎暮らしの私が、庭や、散歩中耳を澄ますと、風の音、虫の鳴く声、鳥のさえずりが聞こえるけれども、度々、車の音、電車の音、時に自衛隊のヘリコプターの音で遮られてしまう。田舎でさえ、ずーっと耳を澄まし続けることは困難になっている。

そんな中で、人は、音、というものに関心を向けることが出来るのだろうか？むしろ、音は要らない、と思う人が増えているのではないだろうか。

こんな時代に警鐘を鳴らしている音楽に、ウクライナの作曲家ヴァレンティン・シルヴェストロフの音楽があるのでは？と思っている。耳を澄まして、耳を凝らして聴こうとしないと聴き取れないほどの、弱音をとても大切にする作品を聴いたことがある。西方音楽館友の会主催ではないが、渡辺研一郎氏の［spin notes ］というタイトルのコンサートも、そのような方向性の一つと思っている。以下、フェイスブックにアップした私の感想。

「即興演奏　spin notes は、沈黙の中から音が生まれてくる瞬間に立ち会えたような、言葉を変えれば、そこここにある見えない、聞こえない、けれども確かに存在する音たちを集めて、紡いでゆく瞬間に立ち会えたコンサートでした。」

古楽も含めてクラシック系の音楽は、そもそも耳を澄ませ、心を澄ませないと、その音楽の隅々までは味わうことが出来ない。クラシック系音楽の人気が下がり気味なのも、騒音に満ちている現代社会が要因の一つなのではないだろうか。

耳を澄まし、心を澄ませて、言葉からは抜け落ちる「伝えたい思いに溢れる音楽」を、聴きにいらしてください。